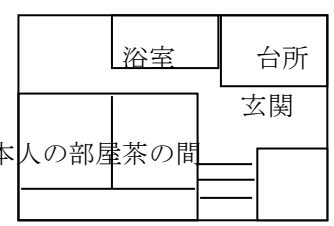
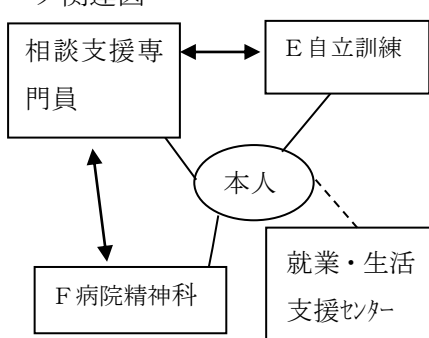


氏名	小島 光夫 様 (仮名)		年齢	26歳	性別	男性
住所	A市	職業	自立訓練利用		体格・特徴	色黒で黒髪、短髪。 やや前かがみで歩く。いつもスマホを持っている。 身長：155cm 体重：60kg
手帳・年金	療育手帳B1 障害年金2級	診断名	精神遅滞 広汎性発達障害			
事例提出の理由						
<p>特別支援学校卒業後5年間障害者枠で一般就労していたが様々な問題行動に会社が対応できなくなり解雇される。その後就労継続A型事業所を利用するが問題行動がさらに頻度が高まったため、自立訓練の利用を開始する。</p> <p>本人の能力に合った環境設定をすることで落ち着いた生活が出来るようになってきたが、母親の障害受容が出来ていないことや環境の変化に弱く苛々すると突発的な行動に出てしまうことが課題となっている。今後安定した生活を送るためにはどんな支援が考えられるか検討したい。</p>						
本人の希望			家族の希望			
・慣れたところで過ごしたい。			・仕事をしてほしい。 ・落ち着いた生活をしてほしい			
家族構成		家族関係・状況・経済面等				
		<p>本人：障害年金2級受給。通帳は母が管理しており、毎日100円をこづかいとしてもらっている。手伝いをすると200円もらえる。</p> <p>母に怒られたくないで「お母さんには言わないですね」が口癖になっている。父と年に1回電車で旅行に行くことを楽しみにしている。</p> <p>父：64歳大学職員（一度退職している）物静かな性格。休日は本人と山登りに行く。</p> <p>母：57歳専業主婦。15時～18時までB市のフィットネスクラブに通っている。本人に厳しく接している。犬を飼っており、主に世話をしてかわいがっている。姉と年に1回海外旅行に行く。</p> <p>姉：29歳今年1月に結婚し、D県に引っ越した。本人とはメールのやり取りをしている。</p> <p>母方祖母：C市在住。時々泊まりに来る。本人と同じ部屋で過ごす。関係は良好。</p>				
既往歴			現病歴：			
なし			なし			

ケースの生活歴										
年	S63 H4	H6	H7	H14	H16	H18	H19	H24	H25	H26
歳	3歳	5歳	6歳	13歳	15歳	17歳	18歳	23歳	24歳	26歳
出生	幼稚園入園。	発達が遅れていることから市の保健師に相談する	抵抗を感じ拒否。	小学校入学。個別支援学級を勧められるが母が	中学校2年で個別支援学級に入る。	特別支援学校に入学。	療育手帳の取得。	運送会社に障害者枠で就職。JOBコーチ支援を受ける。	就労継続A型事業所に通所。	姉が嫁ぎ両親との3人暮らしとなる。療育手帳再判定。自立訓練事業所に通所。精神科通院。
能力 (ADL、IADL)	<ul style="list-style-type: none"> ADL：○自立 調理：△ 掃除、洗濯：△ 移動：○ 金銭管理：× 服薬管理：× <対人>：△ ・他者の視線が気になる。 ・オウム返しで答える。 ・物の貸し借りなどの社会性が低い。 									
生活サイクル	<p>[1日]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5:30 起床 8:30 自立訓練 16:30 帰宅 19:00 夕食 20:00 入浴 23:00 就寝 									
住環境	 <p>本人の部屋茶の間</p>									
活用しているサービス、ネットワーク関連図										
[1週間]	<p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>← 自立訓練 → 休 山登り</p>									
[1ヶ月]	<p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1W</p> <p>2W 3か月に1回精神科通院</p> <p>3W</p> <p>4W</p>									
<p><支援経過と現在の状況></p> <p>就業・生活支援センターが支援し、H24年6月よりA型事業所に通所開始する。福祉課からの依頼で相談支援専門員が計画相談の支援に入る。事業所の物や自分の物を壊す。行き帰りで物を蹴ったり、他人の家に勝手に入ってしまったたり、神社やお寺の賽銭箱から小銭を盗むなどで警察に通報されることもあった。本人、母ともに継続利用を希望していたが、A型事業所と検討し精神科を受診すること、まずは本人に合った施設の利用を勧めていくことにする。</p> <p>H25年6月より精神科通院しながら自立訓練に通所。障害特性の把握と環境設定を行う。母は服薬を好まず、自立訓練利用の後は働いてほしい希望がある。現在、生活は落ち着いてきているが、自立訓練も残り1年になったので今後利用する事業所を検討している。本人は環境が変わってしまう不安がある。</p>										

【出された支援のアイデア（⇒主たる担当者・調整する人、おおよその時期）】

- #1 ・事業所の選択・対応のため、これまでの支援経過やポイント、見解をまとめる。
（⇒自立訓練事業所 H26. 12頃）

・（本人が好きな）電車で通える事業所の情報を提供する。
（⇒相談支援専門員、H26. 12頃）
- #5 ・自立訓練事業所の卒業記念に趣味である写真を発表・展示する機会を検討する。
（⇒相談支援専門員、H27. 5頃）
- #2 ・本人の意欲が向上するようなものを見つける。
（⇒相談支援専門員、H26. 12頃）
- #3 ・移行する事業所への通所訓練（体験・実習）を行う。
（⇒移行予定の事業所、H27. 2頃）

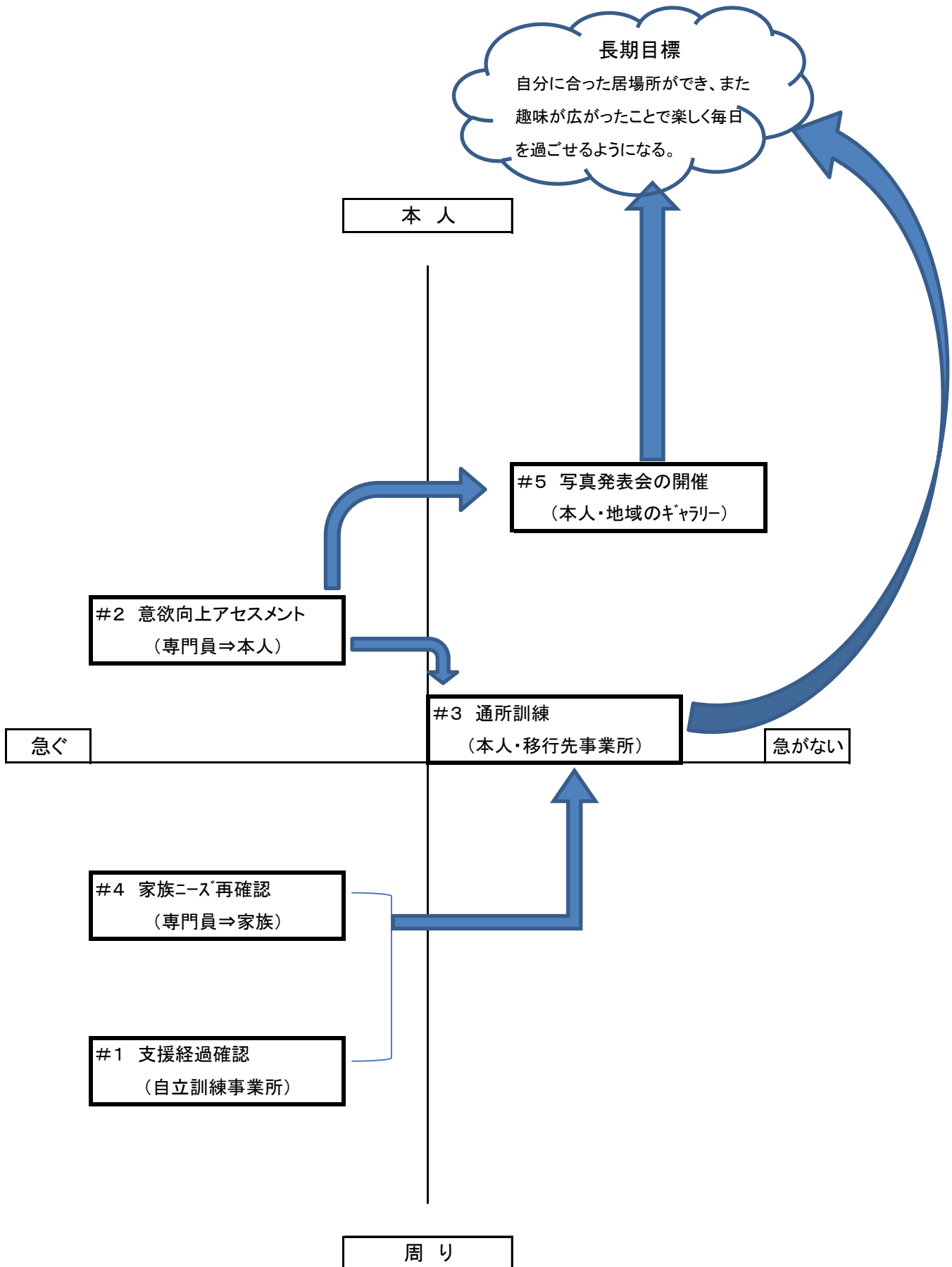
・家族から離れての生活の場（GH等）を検討する。
（⇒相談支援専門員、H27. 6頃）
- #4 ・家族とじっくりと話す機会を作る。（直近から将来的なことまで含め、家族のニーズの再確認）
（⇒相談支援専門員、H26. 12頃）

* 番号は、出された支援のアイデアに対し、事例提供者が実践したいと選択した支援の順番。

【地域課題（あったらいいな）】

- ・身近に鉄道博物館など、趣味を楽しめる場がたくさんあると良い。
- ・家族をサポートする機関（市内・市外を含め）の情報が得やすく、気軽に相談ができると良い。
- ・障害を持った方の文化的交流を促進できるよう、地域のギャラリーが気軽に活用できると良い。

【十文字表】



【相談支援専門員の見立て(アセスメント)】

26歳男性で、中等度の知的障害と広汎性発達障害を持っている。

母親の障害受容が難しく、本人の能力以上のものを要求することが多く、本人も母親の言動に左右されたり、顔色を見ながら過ごしている。母親以外の家族との関係は良好で父との電車旅行や姉とのメールのやり取りは本人の楽しみにもなっている。家族支援の視点を持ち、これまでの振り返りや今後の本人の生活、家族の役割について、家族との面接が必要と考えられる。

本人は、現在、自立訓練事業所で日中活動に取り組んでいる。過去に一般就労(障害雇用)や就労継続A型を利用していた頃は、粗暴行為や不法侵入、窃盗行為などの問題行動も見られ、警察が介入したこともあったが、現在では、自分に合ったペースで日中活動に取り組んでいることもあり、問題行動は落ち着いている。自立訓練のサービスが残り1年という有期限であることから、自立訓練事業所でのアセスメントを得ることは次に繋げる上でも有効と思われる。また、環境の変化に弱い本人の特性にも配慮しながら自立訓練が終了する1年後の移行支援の準備を進めていくことが必要と考えられる。

併せて、本人の楽しみである電車や写真撮影などを活かして社会参加を充実させ、本人の生活意欲を向上させるアプローチも進めていけると良い。

【支援の方向性(プランニング)】 * 支援のアイデア選択の根拠

#1 支援経過確認

本人が落ち着いて活動できている自立訓練事業所から、支援経過を確認することは重要である。支援の工夫やその中で見えた新たな本人のストレングスなどの情報を集積・アセスメントすることにより、他の支援にも活かすことが可能になると考えられる。

#2 意欲向上アセスメント

生育歴からも分かるように、本人はこれまで能力以上のことを母から求められ、母の言動に影響されながら、進学や就職、サービスを選択してきた。本人主体という観点からも、どんな生活がしたいか、本人の生活ニーズや希望、夢を再確認し、それを踏まえて、本人の意欲が向上するような支援を検討していくことはとても重要だと考えられる。

#3 通所訓練

環境の変化に弱い本人の障害特性を考慮し、体験や実習などの機会を作り、丁寧な移行準備を進めていくことは有効と考えられる。また、体験や実習の際には、行けたこと、参加できたことを本人の頑張りとして評価していくことで、本人の自信や意欲を向上させるきっかけにもなると思われる。

#4 家族ニーズ再確認

これまで支援者として、母としか直接的に面接する機会が無く、母のニーズ=家族のニーズとなっていた。しかしながら、本人が他の家族と良好な関係とういうことから、父や姉も含めこれまでの振り返りや将来的なことを話し合う場を作ることで、家族のニーズや役割を再確認できるのではと考えられる。家族支援の視点を持ち、家族力のエンパワメントを図りたい。

#5 写真発表会の開催

本人は、好きな電車などの写真を撮り、支援者や通所先の他のメンバーに見てもらうことを楽しみの1つとしている。今回地域のギャラリーに相談して写真発表会を企画することは、本人の自己実現だけでなく、地域の社会資源の活用や発表会を通じた障害を持つ方の文化的発信、地域住民の障害理解などにも繋がると考えられ、相談支援専門員として、自立支援協議会等にも提案しながら、地域づくりに取り組みたい。

【支援のポイント解説】

ストレス耐性が弱く、居場所が定着せずに粗暴行為、不法侵入、窃盗行為など様々な不適応行動を起こしている発達障害を持つ事例。このような事例の場合は、「困ったケース」として捉えられがちであり、支援についても不適応行動をどのように予防するか、また起こった時にどう介入するかといった議論に偏る傾向があり、根本的な解決に進んでいかない。

今回の事例についても生活歴を丁寧に追っていくと、家族が障害受容ができず、過剰な期待により本人は失敗経験を繰り返してきた背景が浮き彫りとなる。問題ばかりを焦点化せずに、多角的にアセスメントすることで、本人の生きづらさを理解し、スモールステップにより成功体験を積むことが支援のポイントになると言える。今回の事例の場合、「事業所での体験や実習の機会を作り、行けたこと、参加できたことを本人の頑張りとして評価していく」といったポイントを押さえた支援アイデアなども提案されている。

サービス等利用計画【週間計画表】

利用者氏名	小島 光夫 様 (仮名)	障害支援区分		相談支援事業者名	
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	
地域相談支援受給者証番号					

計画開始年月	平成26年9月
--------	---------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は父と外出したり、散歩をする。外出時に撮った写真をパソコンで整理している。 ・自動販売機、電車に興味がある。
8:00	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用			
10:00	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練			
12:00	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練			
14:00	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練	E自立訓練			
16:00	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用	送迎車利用			週単位以外のサービス
18:00								<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業所(就労継続B型事業所)の実習。 ・F病院精神科通院(1/3か月)
20:00	夕食 入浴	夕食 入浴	夕食 入浴	夕食 入浴	夕食 入浴	夕食 入浴	夕食 入浴	
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
0:00								
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像

ご本人の生活支援における着眼点としては、適切な環境設定による情緒面の安定と社会適応力の向上である。有期限ではあるが、自立訓練サービスにより本人に合った作業ペースや声かけなどを見極め、就労継続B型サービス等へ段階的にステップアップさせていくことは有効である。また、相談支援専門員としても、定期的なモニタリングだけではなく、本人や家族との面接を通して、生活意欲の向上や趣味の充実、家族へのサポートに努めることを計画に盛り込み、本人だけではなく、世帯全体のエンパワメントを図ることを重視し、本計画を作成した。